

# 市街地の防災機能を強くする

## 防災研修棟・市民広場が完成



【施設概要】防災研修棟：鉄骨造、平屋建て。延床面積は484㎡、耐震構造となっています。公園を含めた敷地面積は3,828㎡。平成31年3月に完成しました。

安来庁舎周辺は人口が集中する地域。5千人以上が暮らす市街地です。このエリアの避難場所（指定緊急避難場所）として機能する「防災研修棟」「市民広場」が3月に完成しました。両施設は、平成27年度から進めてきた安来庁舎および周辺工事の一環で整備してきたものです。旧市民会館が建っていた場所で、安来庁舎南側に隣接し、木戸川沿いにあります。これらが完成したことで、中心市街地の拠点となる整備事業が全て完了しました。

「防災研修棟」と「市民広場」は、大規模火災や地震が発生した時には一時的な避難場所として利用します。また、長期的な支援が必要な場合には、ボランティアや自衛隊など支援団体の本部として活用されます。

### 防災・減災を学ぶ防災研修棟

防災研修棟は、非常時に機能を発揮するさまざまな設備があります。内部にある約200㎡



▲4月19日、統計調査員の皆さんが研修会にあわせて施設を見学。写真は備蓄室。

の研修室は避難室になり、用途に応じて間仕切りで3区画に分けることができます。約100人の収容が可能で、備蓄倉庫には数日分の食料などが保管されています。

また、個室になった研修室は、非常時には医務室として活用できるようになっています。トイレも男女および多目的のものがあり、また、建物の内部と外部用が備わっているため、大人数の利用に対応しています。棟の出入り口やトイレはバリア

災害時には違う使い方になります

かまどベンチ

マンホールトイレ

研修室

普段



市民広場にある7基の「かまどベンチ」。木戸川沿いに並び、普通のベンチとして利用します。

普段



芝生の中にあるマンホールのふた。普段は広場で遊ぶ時に、障害とならないようになっています。

普段



研修室は普段、中小規模の会議などで利用します。会議机や音響機器が備わっています。

避難



座板を外すと、炊き出し用の釜が2個設置できます。備蓄品には木炭が含まれています。

避難



マンホールの上に簡易トイレを置き、テントをかぶせることで防災トイレとなります。8基あり。

避難



災害時には100人収容が可能な避難場所になります。間仕切りで3分割にできます。

▼防災研修棟のご利用  
通常は、各種研修や会議などで利用できます。土足厳禁。飲食は可能です。  
問い合わせは管財課（☎23-3030）へ。

防災研修棟と市民広場は新たに整備した「市道川尻3号線」に面しています。木戸川に架かる木戸川下橋も車両の通行ができるようになりました。これにより木戸川の左岸からの行き来がスムーズにできます。

健康器具等があります。  
しかし、非常時の際にはこの広場は防災研修棟と連動した防災拠点になります。マンホールトイレやかまどベンチ、防災パーゴラ（災害時にはテントを取り付け簡易小屋として活用）など、避難場所としての機能を補完する設備が整っています。

芝生が広がる市民広場は普段、公園として利用できます。遊具やベンチ・東屋をはじめ、健康器具等があります。

市民広場にも工夫が

アフリー対応。赤ちゃんから高齢者に対応した施設です。  
ロビーには防災の啓発資料を展示しており市民の皆さんの防災研修などの場としてご利用いただけます。

見学した皆さんの感想



中島澄江さん

避難した時にいちばん困るのがトイレです。防災研修棟にはたくさんのトイレがあり、また、公園では簡易トイレの用意がしてあるとのことなので納得できました。

また、個室でベットを備えた救護室がありさらに安心ですね。



山本敏枝さん

災害時には日赤など外部団体から物資が送られて来ると思っていました。が、備蓄倉庫を見学し、市の段階で準備されているのを見て安心しました。

立派な建物なので、普段は有効に活用されるとよいと思います。